

第2回「最上川中流大規模氾濫時の減災対策協議会」 議事概要

日 時：平成28年9月21日（水） 14時00分～15時00分

場 所：国土交通省 新庄河川事務所 2階 第1-1A,B会議室

(1) 事務所長あいさつ

- ・本日はお忙しい中、「最上川中流大規模氾濫時の減災対策協議会」第2回協議会にお集まりいただき、大変ありがとうございます。
- ・前回第1回目の協議会を開催させていただきましたが、その時に大きい柱を確認させていただいて、その後幹事会等開かせていただきながら取組方針についてまとめさせていただきました。今日は、この内容についてご協議いただきご承認をいただければと思っております。
- ・この協議会が始まるきっかけは、今年の鬼怒川の堤防決壊でありました。この取組方針の前に「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づくとありますが、水防災に対する意識をもう一回きっちりみんなで考え直そうじゃないかということが発端だと理解していただければと思います。
- ・今日はこの取組方針の中身を議論・協議していただく中で、さらに水防災についての意識を皆さんで高められればいいなと思っているところです。
- ・本日はよろしく願いいたします。

(2) 議事

①「協議会・幹事会の経緯」及び「目標」の確認

②「最上川中流の取組方針（案）」について

③意見交換等

- ・簡易アラートデモンストレーション
- ・参考資料（台風10号関連）
- ・意見交換（委員発言順）
 - ・台風10号は他人事ではなく、自分達のところではどうするか、シミュレーションしながらみていた。
 - ・上流で降る雨の量と現在の自分たち地域をみて、まだ判断には及ばないと考えていた。
 - ・常に私たちは想定をしていることを知っていただきたい。
 - ・台風9号、10号続けざまだったが、私たちところでは9号で被害を受けた。
 - ・当時私も徹夜して役場にいた。役場は中部地区にあるが、被害があったのは南部地区、角川だった。役場にいてそうでもない雨だったが、道路決壊、川の氾濫、様々なものが出てきた。
 - ・昔は地域万遍なく降ったが、今はそうでなく、村の中でも一部分が集中的に降る。
 - ・あの時は避難の準備情報を9時前と早めに出した。それ以降また降ってきたという情報で、10時以降に勧告を出した。夜出すのは危ないというが、角川が堤防から溢れてきている状況だったので、避難勧告を出した。
 - ・やはりこれからは躊躇せず、全国色々な事例もあるので、空振りにはそれに越したことはないので今回徹底した。
 - ・台風10号は9号のこともあったので、早め早めに対策して、ここまでやる必要はなかったが、逆に住民からどこに避難したらいいか、日中早めに問い合わせがあった。
 - ・そういう心配があるのであれば、予め避難所をつくっておいて勧告なり注意情報を出した方がいいということで、とにかく躊躇しないで決断しようと進めている。

- ・特に、県管理の河川に土砂が溜まっており、浚渫しなければまた同じような結果になってしまうのではないかと。
- ・予算の関係が厳しいのはわかっているが、当村だけではなく全ての市町村そうだと思うので、河川の改修を是非お願いしたい。
- ・大石田の場合、河川事務所の情報に従っていないと広範囲にわたる避難勧告ということになり、逆に、住民が戸惑いを覚えるのではないのかという気がする。
- ・河川事務所の情報をまずきちっとした対応をするということで、今回もやったが、そうしないと、広範囲にわたってどこにどうしてと住民が戸惑いを覚える。
- ・皆が羽越水害を知っていて、その対応で家を造った。堤防のきちんとした管理体制の中で、堤防に合わせてその付近の人たちは移転をして、ここまで水位が上がれば2階に上がればいいと住民が頭に描いている。逆に、そんなに上がるのかどうなのか不安を覚えるのが大石田町の実態ではないかと思う。
- ・今回ハザードマップを作り、黄色の部分、私自身も勧告する場合に、何人くらいいるだろうかマップをみて勉強した。
- ・大石田は特に最上川からの洪水はあり得ないと私自身思っているが、甘いといえば甘い。
- ・県管理の河川が大きな問題ではないかと思う。特に、操作員も国管理は二人で徹底的な管理の下で毎月やっているようだが、50m、100mも離れていないのに県管理の操作員は一人、ただいればいいという感覚、給料も安いのが現実。
- ・県管理の操作員は10年前から一人になって、地域住民は一人で大丈夫かと思っているのが大きな問題になっているところ。私も町長になる前には水門の管理をしていたので、今そこは一人なので本当に心配。
- ・県との河川管理の状態を、こういう場できちっとした討議をしなければならないのではないかと気がしている。
- ・基本的な三本柱、伝える、促す、動く、の提案についてはいいと思うが、国交省だけではなく、我々市町村も地域も問題意識を共有し合うということが、安心・安全を担保できるのではないかと思う。
- ・今回の台風9号、10号については、避難勧告ギリギリの状況だったが、そこまで至らない避難準備体制をとった。特に、昨年9月10日、11日の赤倉温泉にまで上がる状況だった。あの記憶を常に胸におきながらイメージするが、昨年は大変な緊張の中で判断をした。
- ・雨が降るたびに赤倉温泉は水が上がるという状況の中で、自主防災組織、消防団など色んな面での支えがあって何とか乗り切ってきたが、避難勧告は初めてだった。あの体験を通して、地域全体の危機意識が高まったということ、幸いにして怪我人もなく乗り切ることができた。
- ・災害は必ず来る、そして戸沢村のように雨が降っているところと降らないところがあるという状況の中での危機管理のあり方、マニュアルもあるが、どういう風に意識を共有させていくかという視点で、伝える、促す、動くの三つの視点を大事していきたい。
- ・昨年豪雨の際の川の濁り、今年の台風9号、10号の川の濁りが日増しに違う、かなり色が濃くなっていく。
- ・安心・安全の担保をするには里山をどう健全に保つかということの基本を据えておかないとならない。里山を健全にしておくことで、災害に遭った時最小限に止められ、山を放置すると土砂災害に遭ったり、色んな面で洪水など災害に結び付く。
- ・災害が起きたときの対応はもちろん大事だが、それを起こさないための里山の健全、里山の再生、これを共有した問題意識を持っていないと、川の濁りひとつとっても前回と今回は違う。山はそれ

なりに年を取っていくということで、里山を健全にすることの気持ちの共有を皆で持つておくべき。

- ・台風 10 号被害少なく、台風 9 号の例があったので、早めに避難勧告を出した。台風 9 号については、私どもとしては盲点を突かれた。
- ・昨年の例によると、最上小国川は出水するものだという考え方があり、最上川が出水するという 2 点にしか重きを置いていなかった。まさか、県河川の松橋川、堀内川がそのような状況になるとは想像がつかなかった中で、常に避難勧告を出す区域というものが、私どもの予想していたところではなかったというのが、現実問題としてあった。
- ・たまたまその地域については、河川の近くにある住居が 3 軒しかなかったので、避難指示を 8 時位に出すというかなり遅くなった状況。それを踏まえてみると最上川、最上小国川でみると水位計であったり、そういった情報が上流部から見るができるが、今回については、情報のない河川が氾濫をしたということであった。
- ・その情報のない河川をどう対応したらいいのか、我々自治体としては難しいところ。現地に行かないとわからないという状況だったので、対応をどうすべきであったのかが今のところわからないので、こういった会の中で新たな洪水なり水位の予報、予測ができればそのような対応もできるのかなと思っている。
- ・2m 近くの石が、最上川の川幅の真ん中くらいまで押し出されてきて大変すごい水量だったと思うが、河川の長さ的にはあまりなかった。
- ・現地に私も行って 2 時頃までいたが、かなり引いているところだった。
- ・避難所が川の近くにあり、他の市町村も一次避難所はだいたい地区の公民館となっているところが多いかと思うが、川の近くだと橋を渡る時、橋桁の下まで水位が来て怖いということもあり、二次避難所に避難していただいたというところもあった。そういうことも踏まえて考えると、災害によって避難する場所を変えなければまずいのかなと反省もある。
- ・河川の維持は道路の維持と違って、毎日通るところでもないし、なかなか目の付かないところでもあるが、今回の災害のあった堀内川、松橋川を見ると、かなり浚渫を必要とするところが有ると思った。
- ・河川の維持の大切さというのも今回の災害で身につまされたなと思った。
- ・町道の橋台の後ろを廻られて橋が落ちたところもあるので、橋の構造的に余裕を持って造っておかないと何十年、百年に一回の災害時には危ないのかなと思った。
- ・情報提供の中でありがたいなと思っているのが、危険度を予知するメッシュ情報。町民と共有する情報のあり方、同じ町内でも降っているところと降っていないところあるが、将来この状況の中でどうなっていくのか危険度を予知するメッシュ情報、この伝達の共有を大変ありがたいと思っている。被害を最小限度に押さえるため、町民を混乱させないための判断基準としてメッシュ情報は大変ありがたい。
- ・今回の台風については、両隣にいる舟形町長さん、戸沢村長さんから、大蔵の葉山方面に降ったので、両隣が被害を受けたという冗談を言われたが、本当に葉山は凄い豪雨だった。
- ・戸沢村さんも舟形町さんも私どもも同じように避難準備情報を出した。
- ・私は、今年で就任してから 9 年目になるが、3 回ほど避難指示、避難準備情報、避難勧告ということをした。一番最初は、肘折戸沢側の家屋浸水ということで避難勧告を出した。
- ・今回、台風 9 号、10 号について、最初の肘折の災害経験を基にして、同じ過ちというか人災は起こせないという思いの中で発令をしたものであった。人災を起こさないということが一番大事なことだと思っている。建物や施設がいいというわけではないが、最終段階として人災だけは起こさな

いということで発令をした。

- ・台風 9 号の時は夜ということもあり、また 10 号の時も一番雨が降るのは夜中ということだったので、夜中なら地域の住民が非常に不安になるだろうという思いの中で、早めに夕方から避難準備情報を出した。
- ・住民も早いので、大したことないだろうということもあったが、4 箇所避難所開設して一人も避難することなく過ごすことができたのは幸いだった。このことは、あまりにも早過ぎたのではと一部指摘を受けたが、戸沢村長さんの言われるとおり、間違いがあってからでは大変だという思いで、早めに情報を出した。
- ・夜中になる時、そういったことを考え、早めにしていいんだろうかという思いが全然ないわけではない。その辺のことを専門家の見地から、お伺いできればと思う。
- ・水害は今のところはない。一昨年まで 5 年間最上郡の中でも北部で雨が多く 1 億円ほど毎年被害があつて工事をしてきたが、昨年、今年は今のところないので何か変わってきているのかなというのがある。
- ・先ほどあつたように、メッシュで 16 分の 1 まで前よりわかるようになってきているので、その変化によって色々対応もできるのかなという思いでいる。
- ・今年と去年の短い期間で考えるのは危険。気象は年で変化したり、色んな変化をしており、一番今回言っておかなければならないのは地球温暖化で、長い 100 年くらいのレベルでみると全然変わってきている。
- ・今から 30 年前に宮城県で昨年と同じような大雨、S61.8.5 の有名な水害があつた。その時と今と比較して温暖化の進み具合が違っている。IPCC の報告では、もう疑う余地がないがないという結論になっている。
- ・昔と違うのは、皆さんも承知していると思う。前と比べたら、激しいのが増えたような気がするが報道されているが、その通りで海の温度も上がっているし、全体の温度も上がっている。
- ・広島豪雨と同じことが秋田県でも 2~3 年前に 8.9 豪雨というのが起きて、2、3 時間で 200mm 以上降つたが、死者は少なかった。土石流が起きたが、たまたま人口密度が低かつたので人数的にはそれほど大規模ではなかつた。広島はあれだけ密集しているところで起きたので被害が大きかつた。
- ・今一番心配しなければならないのは、雨の降り方が変わってきているということ、昔はこうだつたけどというのは通用しなくなってきているということ、絶対ではないが少し気に留めて欲しい。
- ・山形県では、今の時期を過ぎると真室川町の方はなかなか降りにくい、梅雨末期とかよくいわれているように、梅雨前線が酒田の方から東に伸びるような場合に真室川とか新庄とか東西方向に降る。台風は別だが、これからの季節は降りにくい状況になる。
- ・金山で雨が降ったらデータ放送や雲の動きをみながら、時間ごとの予想降水量みていくが、携帯で山形県最上に大雨洪水警報発令された場合、金山が該当していないため、警報が出ている具体的な市町村名がわかると判断しやすい。
- ・この度の台風は、二つとも 24 時間で降水量 70mm いていないくらいだつたが、S49、S50 二年続けての豪雨災害があつたので、今自分のところがどうなっているか情報が早く掴めれば先ほどの三つのことにつながっていくと思う。
- ・その辺、改善策、いい知恵があつたら知りたい。
- ・例えば携帯の機種は別にしても町内から離れている場合、担当と連絡を取ってネットで検索をするということになる。
- ・注意報段階で職員は待機せず、金山の場合は最上流で他の市町村から流れて来ないということもあ

り、局地的に金山で雨が降れば警報になるということはわかるが、この携帯では山形県最上という区別までしか来ないので、夜間のこととか考えると細分化して欲しい。

- ・役場の問題かもしれないが、なかなか警報段階にならない職員の招集はないので、私どもも考えるが、何かいい知恵あれば伺いたい。
- ・1時間に50、60mm雨が降れば災害の可能性があるのでは油断できないが、その辺が心配。
- ・気象庁の発表では全部市町村単位となっているが、携帯会社によっては市町村まとめて配信しているところもあるので調べてみる。
- ・私の非常用携帯でも情報入ってくるが、最上地域に警報出たという情報、もっと詳しく調べたい場合は、そこからウェブサイトアクセスして見ている。
- ・システムで見ているが携帯情報は会社によって提供。仕方が違う。会社毎に調べ、考えていきたい。
- ・S49の災害知っている職員がいない、大雨の降っている地域の皆さんから見ると大雨どうなんだろうと忘れちゃっている、1時間に100mmの雨。
- ・降ったとして一番には本合海地区で、排水ポンプを雨が降らなくて3年ほど動かしていなかったが去年動かしたら起動するというので、あとは畑地区だけだと思っている。
- ・金山から最上川まで140m高低差があり、市内でも100mの高低差あるので、市内の氾濫は一時的なもので、逃げなければならぬのはないのかなど、急峻な水が神室から最上川まで一気に流れるので水が滞留するのはないだろうなどと思っている。
- ・広域では国土交通省と同じ機械を導入し、台風9号の時に初めて一般出動で大蔵村の方のトマト施設被害に対応。消防ポンプ3台来たが全然敵わず、バックホウで穴を掘って水の汲み上げをやったら1時間ほどで排水したので、威力を再認識し導入してよかった。
- ・これからインバウンドや観光客が色々なところに来た時、ゲリラ豪雨により最上郡のどこで溢れるかわからないが、溢れたところに4台を集中的に使うことで、道路を確保したり、減災する行動ができれば、この地域全体を訪れる人の安心感が違うと思う。そうならないことが一番いいが、もしなった時は4台で各市町村協力し合う。
- ・昨年は、最上町で溜まりそうになり、出動すべき状況だったのかも知れないが、マニュアルに欠けていたという反省があった。今回は、どこであっても広域連合で受ければその配置しているところに指令を出して行くということが実践できよかった。
- ・特に、最上町とか肘折とかお客さんが多く訪れるところは大変心配だと思うので、そういうところに素早く移動できたらいいと思う。

④取組方針の決定

取組方針について、全委員の同意を得て決定。

(3) その他

特になし

(4) 山形地方気象台長閉会のあいさつ

- ・ご議論いただき、ありがとうございました。長時間にわたり色々な意見を聞かせていただき、非常にためになりました。
- ・先ほど金山町長さんからありましたように、かゆいところに手が届くようなことを皆さんと共有できれば、より現実的に対応できるのかなと思います。

- ・ 今後 5 年間取組方針に基づいてやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。
- ・ 雨の降り方が変わってきていますので、昔と変わっているということを念頭に置いて、対応いただきたいと思います。
- ・ 速やかな情報共有ということが非常に重要で、人命を第一にという観点で対応していきたいと思います。
- ・ 今日のご苦勞様でした。